

字学校公開が白河市の信夫第一小学校、大信中学校を会場に開催されました。県内外から三百名を超える方に参加していただき、「気づき、考え、実行する」子ども達の姿をご覧いただきました。両校の先生方の「待つ姿勢」、そして、生徒の「自主的に活動」する子ども達の姿に心を打たれた方も多かったと思います。とてもいい発表でした。

西白河地区では、実行委員会を組織し、各係主任の先生を中心にはじめました。どの係も、それぞれに役割を

十日六日(金)、青少年赤十字

果たしていただきましたし、各学校でJRC活動に熱心に取り組んでいただきました。

また、ご指導をいただきました。県・市教育委員会様、青少年赤十字福島県指導者協議会長様、日本赤十字社福島県支部の皆様、おいしい大信うどんの入った豚汁を作ってくれた大信地区赤十字奉仕団の皆様、物心両面にわたりバックアップをしてくださった県南地区賛助奉仕団の皆様、両校のPTAの皆様等、ご支援をいただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

十日六日(金)、青少年赤十字学校公開が白河市の信夫第一小学校、大信中学校を会場に開催されました。県内外から三百名を超える方に参加していただき、「気づき、考え、実行する」子ども達の姿をご覧いただきました。両校の先生方の「待つ姿勢」、そして、生徒の「自主的に活動」する子ども達の姿に心を打たれた方も多かったと思います。とてもいい発表でした。

西白河地区では、実行委員会を組織し、各係主任の先生を中心にはじめました。どの係も、それぞれに役割を



白河市立表郷小学校長  
青少年赤十字西白河地区指導者協議会会長  
神 永 瞳 子

## 皆さんに感謝して



編集発行  
青少年赤十字  
福島県指導者協議会  
日本赤十字社福島県支部  
〒960-1197  
福島市永井川字北原田17  
TEL024(545)7998

人間を救うのは、人間だ。  
Our world. Your move.

「気づき、考え、実行する」と題してご講演をいただきましたのは、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター学力調査官・教育課程調査官の小松信哉先生でした。小松信哉先生は全国学力・学習状況調査の問題を作つていらっしゃるそうです。その問題文には、学力を調査するだけではなく、問題文に込められた意図があることをはじめて知りました。「

い続ける子どもであつてほしい、友達との学び合いの中で気づきながら学んでほしい、友達の良いところを見つけられる子であつてほしい、優しさが広がる子どもであつてほしい」という願いを込めて、それに合った場面を意図して問題文を作成しているということです。その深い思いに、

向上的ためにどのような手立てを工夫すればよいのか。と進めていったらよいか手探りの中、これまでの研究校の中、これまでの研究校の実践には及びませんが、どうにか十月六日、学校公開の日を迎えることができました。

しかし、本研究指定は、本校の実態から、学級全体が生き生きと学習に向かう態度をどのように育成すればよいのか。そして、一人一人の学力



白河市立信夫第一小学校長  
木 村 真 一

## 「気づき、考え、実行する」そして 「振り返る」をこれからも学校経営に

青少年赤十字研究推進校の指定を受け、何をどのように進めていつたらよいか手探りの中、これまでの研究校の中、これまでの研究校の実践には及びませんが、どうにか十月六日、学校公開の日を迎えることができました。

これまで、赤十字の理念である「人道」を大切に、「思いやり」「親切」「協力」「折り合いをつける」といった心を育みながら、人の役に立つことに意義と誇りを持てるよ

を見る温かい眼差しやお人柄に触れて感激いたしました。青少年赤十字の「気づき、考え、実行する」という態度目標と学力は大いに関係があることを再確認いたしました。

私は、三年前に青少年赤十字指導者協議会の北海道・東北ブロックの研修会に参加しました。他県に比

べて、福島県の組織率はかなり高いことにこれまで関わってきた皆さんの努力と実践が表れています。今後も、西白河地区の青少年赤十字活動の充実・発展のためにできることを実践していく

たいと思っています。全ての人たちが幸せになる社会をめざして…。

うにするとともに、青少年赤十字の態度目標である、問題に「気づき」、自分に何がで起きるか深く「考え」、正しいことを勇気を持つて「実行する」、さらに、自分の行いを「振り返る」態度を身に付け、ものごとに主体的に取組む児童の育成を、学校経営ビジョンの中核にして教育活動を開してまいりました。

この研究実践の過程において、あることを実感しました。それは、「教師が変わらなければ、子どもは変わらない」ということです。逆に言えば、「教師が変われば、子どもも変わる」ということであります。さらに、子どもは日々成長します。だから、教師の変化もいつも現在進行形でなければならぬということです。

特に、青少年赤十字の指導上の考え方である、「先見性」「指示のない生活の具現」「子どもの気づきを待つ姿勢」の具現化は、教師自身を変化させ、子どもを見取り価値付けていく有効な手立てであることを実感しました。



## 変わるべきは教師

白河市立信夫第一小学校

研修主任 佐藤克浩

公開当日は、青少年赤十字の実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」との関わりから、これまで取組んできたことの一端をご覧いただきましたが、まだまだ成果と言うには程遠いものですが、教職員も児童とともに成長し変化していくため、皆様方からいただいたご意見やご感想を、今後も本校教育活動推進に生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、ご支援やご指導をいただきました多くの関係機関の皆様に心から感謝と御礼を申し上げます。

今回、青少年赤十字の研究指定をお受けして我々が得たものは何か。端的に言えば「教師像の変容」と言えます。そう思うに至った訳は…。

青少年赤十字の精神に基づいた研究をするのだから、青

少年赤十字の実践目標に則つた活動を通して態度目標に迫っていくことになるでしょう。そこで研究主題を「思いやりの心をもち、進んで学び合う子どもの育成」としました。「思いやり」という表現を掲げたのは、子どもと子どもがかかわり合つて学び、学級・学校といった共同体が成立するために友達を思いやることができる優しさが不可欠であると考えたからです。そして「進んで」という表現には「気づき、考え、実行する」つまり主体性を引き出すことの重要性を謳つて

います。さらに「学び合う」という表現には、青少年赤十字の実践が特別活動や課外の奉仕的な活動を通して行われることにとどまらず、より日常的に、つまり日々の授業でこそ、子どもの実践力と態度を育てていかなければならぬことと考えたからです。

さて、研究主題に迫るための研究内容は大きく次の三点です。(1)対話を重視した授業(協働を引き出す) (2)主体性を引き出す単元展開(やつてみたい、やらなければならぬ) (3)調整力を高める話合い活動(折り合いをつける)このような研究内容を実践化するためには、いや、子どもたちの声が響くようになります。

そしてこの研究内容は、今回の指導要領改訂の目玉の一つ「対話的・主体的で深い学び」に相通ずるものがあると考えます。つまり、僭越ながら結論として言えるのは、青少年赤十字に、教育に対する非常に高い「先見性」があつたということです。

そうとはしないでしよう(指示待ち)本音で語り合おうとはしないでしよう。そして教師の評価ばかり気にして、自分自身の評価で自らの行動を見つめ直し、より良い方向へ改善していこうとはしないでしよう。

## 自分で考え 行動できる生徒に



白河市立大信中学校長

笛沼 真一

青少年赤十字研究推進校として、二年間の指定を受け、研究主題に「気づき、考え、実行する生徒の育成」、副主題に「総合、特別活動を柱とした実践を通して」を掲げました。さらに、目指す生徒像として、「相手の気持ちをくみ、思いやる生徒」、「相手の立場を尊重し、自分の考え方で行動できる生徒」、「自分ので行なうことに自発的に活動できる生徒」を設定し、研究実践に取り組んで参りました。

生徒会では、本部が中心となり「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の青少年赤十字実践目標達成に近づけるよう被災地支援活動等の募金活動や飢餓支援活動にも取り組んで参りました。

各委員会では、自分たちは何ができるか、どうすればよいかを考え、案を出し合い活動発表での、子どもたちの主体的・主体的な活動ぶりにお

2年生は、将来郷土の発展に貢献できる大人となる自覚を高めることを目標に、地元を中心とした事業所での職場体験を通して働く喜びや大切さを学んできました。

1年生は、郷土のことを考え郷土を愛し、郷土のために自分ができることは何かを考え、伝統や文化を継承していくことの大切さを学んできました。

この研究実践を通して、子どもたちは地域の一員として地域のために何ができるのかに気づき、主体的に考え、具体的に実行に移すことができました。今後も継続して主体的に気づき、考え、実行できる生徒を育てていきたいと考

どもたちは地域の一員として地域のために何ができるのかに気づき、主体的に考え、具体的に実行に移すことができました。今後も継続して主体的に気づき、考え、実行できる生徒を育てていきたいと考

えています。



## 気づき、考え、実行する 生徒の育成をめざして

白河市立大信中学校  
JRC担当 佐藤 一彦

本校は、青少年赤十字研究推進校として研究主題「気づき、考え、実行する生徒の育成」というテーマのもと、教育活動に青少年赤十字の精神を意義付け取り組んできました。

総合学習では、原発事故に

なる相馬焼き窯元「いかりや商店」での学習を行つていま

す。伝統工芸の素晴らしさ、それを支えるご主人の技術についていく(実行)ことを理解し、新たな活動が委員会で始まりました。例えば、日常生活の友達のよい行いや心温まる行いの紹介を放送した放送委員会、授業で経済的に貧しい国じはがきの収集を自分達で始めた新聞委員会など様々な取組みが見られるようになります。このような自発的な取

り組みができるようになってきた背景には、全校集会や道德の授業などを通じてボランティア精神の意識付けを行つたことも要因としてあげられます。

## 私達のJRC活動

白河市立大信中学校

三年 国井昂也

大信中学校では、昨年度からJRC関連の活動として、生徒会執行部が中心となり、ペットボトルキャップの回収や募金活動を行つてきました。ペットボトルキャップの回収では、各家庭や地域の方々から多くの協力を得て、予想をはるかに上回る数のキヤップを回収することができました。

今年度、執行部として新たに取り組んだのは、「救缶鳥プロジェクト」です。救缶鳥という缶パンを一定期間備蓄した後、回収し、飢餓に苦しむ人々に届けるというもので

す。飢餓で苦しむ人々を救うために何ができるか考えた結果、取り組むことを決めました。生徒だけでなく、保護者の皆さんや先生方も協力を得ることができました。

執行部以外にも、スローガン「気づき、考え、実行する」のもと、各委員会が活動しました。放送委員会では、「あつたか大信タイム」という時間を開け、生徒の活躍の様子や何気ないことばで

た。新聞委員会では、新聞作成に加えて、書き損じハガキの回収を行いました。

これらは、自分たちの「気づき」から始まつた活動で、私達を大きく成長させてくれました。今後も継続して取り組み、大信中学校の伝統として引き継いでいきたいと思います。



## 青少年赤十字作品募集 『詩』・『100文字提案』



青少年赤十字作品募集『詩』・『100文字提案』

青少年赤十字作品募集中は「青少年赤十字活動の活性化と意識を高めること」を目的にして、平成十八年度から十四年度からは、海外の赤十字から寄せられた救援金で行われている「東日本大震災復興支援推進事業」の一つとして実施されています。

今年度は六四校から五〇六七作品の応募がありました。審査は予備審査から第二次審査まで延べ五十数名の審査員の方々により、作品一つ一つに込められた皆さんの思いを受け止めるべく慎重に行われ各賞が決定しました。

今年度も積極的に応募いただいた学校、適切なご指導を頂きました指導者の方々、進んで応募いただいた児童、生徒の皆さんに感謝と御礼を申し上げます。

の赤十字から寄せられた救援金で行われている「東日本大震災復興支援推進事業」の一つとして実施されています。

「福島・日本・世界のために　わたしがしたいこと、できること  
　　須賀川市立阿武隈小学校 四年 矢吹 嘉

　　“フクシマ”は、きらいです。  
　　カタカナで書くと、放射能でよごれているようです。  
　　ぼくが住んでいるのは、“福島”です。  
　　山も川も鳥も虫もぼくも、元気です。

　　こんな福島のことを見てもらいたいです。  
　　学校も楽しい。



シマ」とカタカナで書いてあります。射能の話題のときは、必ず原発事故や放射能の話題のときです。それを見ると、いつも悲しくなります。社会科の学習で、福島県のことを調べました。五十九の市町村があつて、約百九十万人の人が住んでいます。自然もいっぱいです。とてもきれいです。ぼくと同じように元気な人がたくさんいます。みんな楽しく生活しています。このことを世界中の人に知つてもらいたいです。

「わたしのが感動したことばやできこと」と  
福島県立白河旭高等学校  
三年 磯貝 涉太

私は被災した親戚が  
います。

彼は八十二歳です。

漁師として働いていまし  
たが、今はできません。

「いたけど、今は酒造りをして  
いるみたいだよ。しかも福島  
県のものだけで」と聞きました。  
た。津波で家族を亡くして、  
るのに、それに高齢なのに莊  
しいことに挑戦する彼は強  
く、勇ましくて格好いいで  
す。私も何かに挫折したとし  
ても彼のように、また立ち直  
がつて前を向いて進んで行こ  
うと思いました。

青少年赤十字福島県指導者協議会長賞  
「わたしのできるボランティア」  
会津坂下町立坂下中学校  
二年 桑原 希

とう」「上手だったよ」「また  
来てね」と涙を流しながらも、  
けてくれる言葉とあたたかい  
手のぬくもりに応えるため  
に、これからも踊りを続けて  
いきたいと思います。

手のぬくもりに感謝して  
会津坂下町立坂下中学校  
二年 桑原 そ

彼は今、福島県のものだけではなく、酒づくりに挑戦しています。

彼は高齢にして新たな人生への第一歩を踏み出しました。

日本舞踊の会で小一から年に数回、老人ホームに慰問しています。

踊り終わると、目に涙をためて私をじっと見つめ、「ありがとう」の思いの込もった手のぬくもり…私の成長を見守ってくれているような思いを感じます。



を、小峰城が教えてくれました。

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞

「いのちの詩・愛の詩」

白河市立白河第二中学校

一年 金澤 賴志

日本赤十字社福島県支部長賞

白河市立表郷小学校

二年 大久保 奏

相馬市立日立木小学校

一年 今村 清邦

福島県立白河旭高等学校

三年 渡辺 紗弥

私は

じつと立たずむ…

風の匂いが変わつても。

多くの命が

それぞれの思いで

私を見つめ、語りかけ、

そして去つて行つた。

ある時は風雨に打たれ  
ある時は搖れに耐えた。

く、まるで白河を守り愛する  
ことが自分の使命だと言つて  
いるようにも感じます。

植物も虫も動物も人間も、  
全てが大切な一つの命として  
それらの声に毎日静かに耳を傾ける小峰城。

大震災で崩れた石垣を再建するため、多くの人々が力を貸してくれたことに感謝しているのではないだろうか。

愛情をもつて助け合いながら歴史をつなぐことの大切さ

受賞された皆さん

日本赤十字社社長賞

須賀川市立阿武隈小学校  
四年 矢吹 風

学校奨励賞

郡山市立富田東小学校  
福島市立福島第一中学校

福島県青少年赤十字賛助奉  
仕団委員長賞

白河市立白河第二中学校

青少年赤十字福島県指導者  
協議会長賞

会津坂下町立坂下中学校

二年 桑原 希

学 校 賞

福島市立庭坂小学校  
郡山市立富田東小学校

須賀川市立柏城小学校  
いわき市立郷ヶ丘小学校

福島市立福島第一中学校

## フィリピンユースメンバー福島訪問

### 日本赤十字社福島県支部国際交流事業

11/5(日)

11/11(土)

#### フィリピンメンバーの福島での日程

11月5日(日)	●福島着(いわき市)
11月6日(月)	●地域防災交流センター久ノ浜・大久ふれあい館 ●いわき・相双地区高等学校青少年赤十字連絡協議会秋季総会参加・ホームステイ
11月7日(火)	●磐城第一高等学校・いわき総合高等学校・平工業高等学校・平商業高等学校 ホームステイ
11月8日(水)	●コムタン福島(原子力災害について)・日赤福島県支部 ●福島赤十字病院 ホームステイ
11月9日(木)	●福島東稜高等学校・旧堀切邸見学・学校法人松韻学園福島高校・県北JRCメンバー交流会
11月10日(金)	●福島県高等学校青少年赤十字連絡協議会秋季総会第50回県大会参加
11月11日(土)	●帰国





平成二十九年度福島県青少 年赤十字国際交流事業として、フィリピンユースメンバーを福島に招待しました。昨年までは福島のメンバーをフィリピンに派遣していましたが、今年度は更に互いの交流を深めることを目的にフィリピンメンバーを福島に招待したもので、四名のメンバーとスタッフ、計五名が福島を訪れました。

招待の目的は青少年赤十字のメンバーとの交流を通して互いの理解を深めることに加え、間もなく七年目を迎える年。

また、茶道や浴衣の着付けなど日本文化に触れ、日本の豊かな四季の景色とともに忘れることのできない思い出となつたのではないでしょうが、明るく積極的でフレンドリーなフィリピンメンバーとの交流を通じて、福島の高校生も国際的視野に立つて物事を考え行動することの大切さや自分の意見をきちんと述べることも本当の意味で国際理解に繋がることを学んだ七日間でした。

また、茶道や浴衣の着付けなど日本文化に触れ、日本の豊かな四季の景色とともに忘れる事のできない思い出となつたのではないでしょうが、明るく積極的でフレンドリーなフィリピンメンバーとの交流を通じて、福島の高校生も国際的視野に立つて物事を考え行動することの大切さや自分の意見をきちんと述べることも本当の意味で国際理解に繋がることを学んだ七日間でした。

招待の目的は青少年赤十字のメンバーとの交流を通して互いの理解を深めることに加え、間もなく七年目を迎える年。

また、茶道や浴衣の着付けなど日本文化に触れ、日本の豊かな四季の景色とともに忘れる事のできない思い出となつたのではないでしょうが、明るく積極的でフレンドリーなフィリピンメンバーとの交流を通じて、福島の高校生も国際的視野に立つて物事を考え行動することの大切さや自分の意見をきちんと述べることも本当の意味で国際理解に繋がることを学んだ七日間でした。



今年の学校公開では前日の会場作成や資料展示など中学生が大活躍してくれました。様々な活動を通して、気づき、考え、実行する生徒さんが育っていると感じます。お忙しいところ原稿をお寄せいただきました方々、協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

## あ と が き



今年の学校公開では前日の会場作成や資料展示など中学生が大活躍してくれました。様々な活動を通して、気づき、考え、実行する生徒さんが育っていると感じます。お忙しいところ原稿をお寄せいただきました方々、協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

## 思い出の二日間

福島県磐城第一高等学校 一年 高坂 伊織

平成二十九年度福島県青少年赤十字国際交流事業で五人のフィリピンユースメンバーが約一週間福島県に滞在し、そのうちの三日間、アンジェロ君が私の家にホームステイしました。

初日の夜は、家族が作ったたくさんの日本食で歓迎パーティーをしました。フィリピンでは生卵が食べられないと聞いたので卵かけごはんにチャレンジしました。お寿司や天ぷら、煮物など美味しさうに食べててくれたので嬉しかったです。特にコロッケが気に入りました。

次日の夜は料理が得意なアンジェロ君が私たち家族のためにアドボという料理を作ってくれました。家族みんなでアンジェロ君と一緒にスーパーへ行き、お肉やトマトでアドボを作りました。家族みんなでアドボを味わって、とても感謝しています。ありがとうございました。

うとしている東日本大震災の被害と復興に向けての取り組みを実際に感じてもらうことがあります。

メンバーはいわき市久ノ浜の防災センターを見学し、津波や火災の被害、避難所生活について説明を受け、三春町の県環境創造センターでは原発事故や福島の美しい自然の映像に触れ震災や福島の現状について理解を深めました。

学校訪問や県大会への参加で福島の高校生やJRCメンバーと交流し、互いに活動発表を行うことで絆を深めていきました。

ト、酢などを買いました。アドボは醤油と酢がきいていてとても美味しい、家族からも好評でした。外国人の人と長い時間一緒に過ごすのが初めてだったので最初はとても不安でしたが、英語が通じなくても積極的にコミュニケーションを取り打ち解けることができたのも嬉しかったです。アンジェロ君のおかげで家族の絆や団結感がさらに深まりました。また、フィリピンに対する関心が今まで以上に高まりました。このような素晴らしい体験をさせていただきとても感謝しています。ありがとうございました。

# 赤十字救急法受講の状況について

青少年赤十字の実践目標の一つに「健康・安全」があります。今年度多くの学校、団体が赤十字救急法を受講しました。(平成30年1月31日現在)

月日	学校・団体	受講者	人数
<b>救急法 基礎講習</b>			
7月20日	学校法人尚志学園 尚志高等学校	JRC 部員	23
7月26日	福島県立白河旭高等学校	JRC メンバー	28
7月27日	青少年赤十字県南地区高等学校指導者協議会	JRC メンバー	25
8月17日	学校法人福島成蹊高等学校	3学年普通コース	19
8月21日	県北地区高等学校青少年赤十字連絡協議会	JRC メンバー、教職員	17
8月21日	福島県磐城第一高等学校	JRC メンバー	16
<b>救急法 救急員養成講習</b>			
8月21日 ～23日	県北地区高等学校青少年赤十字連絡協議会	県北地区高校 JRC メンバー、教職員	17
8月22日 ～23日	福島県磐城第一高等学校	JRC メンバー	16
<b>救急法 短期講習</b>			
5月22日	福島大学附属中学校	教職員	20
5月23日	郡山女子大学附属高等学校	生徒（1年生）、教職員	147
5月30日	郡山女子大学附属高等学校	生徒（3年生）	112
6月10日	郡山市立東芳小学校	教職員、保護者	62
6月12日	郡山女子大学附属高等学校	教職員	15
6月12日	郡山市立緑ヶ丘第一小学校	教職員	26
6月12日	郡山市立朝日が丘小学校 教養委員会	教職員、保護者	49
6月15日	いわき市立草野小学校	教職員、保護者	47
6月16日	白河市立白河第二小学校	教職員、保護者	41
6月17日	県北地区高等学校青少年赤十字指導者協議会	JRC メンバー	33
6月19日	青少年赤十字田村地区指導者協議会	教職員	33
6月21日	郡山市立安積第一小学校	保護者	21
6月21日	郡山市立高瀬小学校	児童、教職員、保護者	39
6月22日	青少年赤十字西白河地区指導者協議会	教職員	39
6月22日	須賀川市立岩瀬中学校	生徒、教職員	160
6月23日	いわき市立錦東小学校	教職員、保護者	32
6月23日	白河市立信夫第二小学校	児童（5・6年生）、教職員、保護者	33
6月23日	会津若松市立一箕小学校	教職員、保護者	51
6月25日	田村市立瀬川小学校父母と教職員の会	児童（5・6年生）、教職員、保護者	43
6月27日	三春町立三春中学校	生徒（2年生）	115
6月28日	三春町立三春中学校	生徒（3年生）	113
6月28日	郡山市立永盛小学校 PTA 会長	教職員、保護者	82
6月29日	三春町立三春中学校	生徒（1年生）	106
6月29日	郡山市立桜小学校	教職員、保護者	45
6月30日	矢吹町立三神小学校	保護者	42
6月30日	白河市立五箇小学校	教職員、保護者	52
6月30日	郡山市立高倉小学校 PTA	教職員、保護者、子ども教室安全管理委員	42
6月30日	郡山市立鬼生田小学校	教職員、保護者	27
6月30日	三春町立中郷小学校	教職員、保護者	63
6月30日	郡山市立柴宮小学校 PTA 会長	教職員、保護者	59
6月30日	郡山市立行健小学校 父母と教師の会	教職員、保護者	27
6月30日	白河市立みさか小学校	教職員、保護者	28
7月2日	郡山市立安子島小学校	教職員、保護者	42
7月3日	郡山市立守山小学校	保護者	34
7月3日	二本松市立油井小学校	保護者	56
7月4日	本宮市立白岩小学校 PTA	児童（6年生）、教職員、保護者	81
7月4日	福島市立平田小学校	教職員、保護者	29
7月4日	郡山市立行健第二小学校	教職員、保護者	59
7月4日	郡山市立金透小学校	教職員、保護者	39
7月4日	郡山市立安積第二小学校	保護者	116
7月5日	郡山市立橋小学校 父母と先生の会	教職員、保護者	23
7月5日	会津若松市立日新小学校	児童、教職員、保護者	37
7月6日	いわき市立菊田小学校	児童	77
7月7日	三春町立中妻小学校	教職員、保護者	35

月日	学校・団体	受講者	人数
<b>教職員、保護者</b>			
7月7日	須賀川市立白江小学校	教職員、保護者	48
7月7日	郡山市立御館小学校	教職員、保護者	34
7月7日	福島市立平石小学校	児童、教職員、保護者	20
7月7日	福島市立子山小学校	児童（1～6年生）、教職員、保護者	29
7月7日	福島県高等学校青少年赤十字指導者協議会	JRC メンバー	11
7月7日	福島市立松川小学校	児童、教職員、保護者	150
7月8日	田村市立要田小学校	教職員、保護者	38
7月10日	白河市教育委員会	教職員	15
7月11日	鏡石町立鏡石第二小学校	児童（5・6年生）、教職員、保護者	64
7月11日	三春町立沢石小学校	児童、教職員、保護者	90
7月12日	棚倉町立近津小学校	児童（5・6年生）、教職員、保護者	25
7月12日	猪苗代町立線綠小学校 PTA 会長	児童、教職員、保護者	52
7月14日	中島村立吉子川小学校	教職員、保護者	32
7月14日	郡山市立富田東小学校 PTA	教職員、保護者	49
7月14日	福島市立森合小学校	教職員	30
7月15日	伊達市立小手小学校	児童、教職員、保護者	51
7月18日	郡山市立郡山第六中学校	生徒（2年生）	127
7月19日	郡山市立郡山第六中学校	生徒（3年生）	94
7月20日	須賀川市立大森小学校	教職員	13
7月21日	白河市立白河第三小学校	教職員	33
7月24日	白河市立白河第五小学校	教職員、保護者	8
7月25日	福島県立郡山支援学校	教職員	67
7月26日	白河市教育委員会	教職員	29
7月26日	福島県立あぶくま支援学校	教職員	130
7月27日	伊達地区青少年赤十字指導者協議会	高校生、教職員、賛助奉仕団員	13
7月28日	青少年赤十字いわき地区小中学校指導者協議会	児童・生徒、教職員	40
7月28日	青少年赤十字両沼地区指導者協議会	児童・生徒、教職員	100
7月31日	会津若松・北会津青少年赤十字指導者連絡協議会	児童・生徒	83
8月4日	県北地区高等学校青少年赤十字指導者協議会	県北地区高校 JRC メンバー	36
8月9日	青少年赤十字郡山地区指導者協議会	児童（4～6年生）	56
8月24日	福島市立西信中学校	教職員	16
9月1日	白河市立信夫第一小学校	児童（5・6年生）	38
9月12日	いわき市立江名中学校	生徒（3年生）	53
9月19日	いわき市立菊田小学校	児童（5年生）	26
10月6日	いわき市立菊田小学校	児童（5年生）	27
10月10日	福島県立郡山商業高等学校	生徒、教職員	32
10月17日	いわき市立菊田小学校	児童（5年生）	26
11月15日	福島県教育委員会	県内の放射線・防災教育推進校の小学生及び教師	31
<b>幼児安全法 短期講習</b>			
7月26日	福島県立白河旭高等学校	JRC メンバー	28
<b>水上安全講習 短期講習</b>			
7月3日	大玉村教育委員会	教職員	34
7月8日	大玉村教育委員会	教職員	10
7月13日	福島市立荒井小学校	児童（3年生）	36
7月19日	猪苗代町立吾妻小学校	児童	77
9月6日	浅川町立山白石小学校	児童、教職員	30
9月13日	いわき市立間関第一小学校	児童（5・6年生）	100
<b>健康生活支援講習 短期講習</b>			
8月2日	青少年赤十字耶麻地区指導者協議会	児童・生徒、教職員	87
8月8日	青少年赤十字福島県指導者講習会日本赤十字社福島県支部	県指導者講習会参加者	62
8月10日	いわき相双地区高等学校 青少年赤十字指導者協議会	いわき地区高校 JRC メンバー	37
<b>防災セミナー</b>			
7月27日	青少年赤十字西白河地区指導者協議会	児童・生徒、教職員、保護者	45
8月9日	会津地区高等学校青少年赤十字指導者協議会	会津地区高校 JRC メンバー	30
9月15日	相馬市立中村第一中学校	生徒	140
9月12日 ～13日	いわき市立江名中学校	生徒（3年生）	53